

中学生 模擬手術を体験

ブラック・ジャックセミナー

電気メス、内視鏡で

能代山本の30人 先端医療に興味津々

能代市落合の能代厚生医療センター（近田龍一郎院長）で6日、能代山本の中学生を対象とした外科の模擬手術セミナー「ブラック・ジャックセミナー」が開かれた。参加者は実際の手術室で医師や看護師らの指導を受けながら、内視鏡トレーニングやシミュレーターでの手術体験、超音波メス操作、手術縫合などを体験、先端医療への関心を高めていた。

同セミナーは医療機器メーカー「ジョンソン・エンド・ジョンソン」（本社・東京都）が17年から社会貢献活動の一環で全国の医療機関と共催して開いている。同セミナーでは、今年で3回目。

これまで能代市内の中学生を対象としてきたが、今回は藤里町、三種町、八峰町にも対象を広げ、能代山本にある13中学校のうち12校から86人の応募があり、抽選で選

師や看護師らが指導、解鏡手術の模擬体験では、説明した。このうち、腹腔



内視鏡トレーニングで鉗子操作を体験する中学生たち

いるシミュレーターを使って胆のうの切除に挑戦。医師からアドバイスを受けながら左右の手で器用に鉗子と電気メスを操作し、無事に成功すると、笑顔が見られた。

また、超音波メスで鶏肉を切る体験では、「骨は切れないようになっていくのですか」、「メスの部分はどれくらい熱くなりますか」などと積極的に質問する生徒もあり、実際の医療機器に興味津々な様子だった。

峰浜中3年の島山優衣さんは「医療の道に進みたいと思っていたので参加した。本物の医療機器を操作できて、どんな手術があるのかというのを知れた。難しかったけど、

将来への思いが強くなったと目を輝かせていた。同センターの大山健一

でも最先端の医療機器と技術があることを早い時期から知ってもらいたい。参加した生徒たちの

姿は生き生きしている。定期的に開催して、機会を提供したい」と話していた。

外科、放射線科などの医

た。